稲山会 通信

第28号
2014年1月1日発行

発行人：斉藤雄二　発行所：稲門山の会事務局　TEL03-3367-3723　FAX03-3367-8150 ©稲門山の会1998

平成26年を迎えるにあたり――「親の登攀」

当然のことながら歳をとってくると、身体の能力が衰えてくるのは致し方のないことである。若い時に盛んに山に登っていた身にすれば、どこかで山に関わっていたいと思うのだが、実際には体が動いてくれない。何とも寂しく不甲斐ない感じが強い。少しでもその体力、気力を維持しようと思えば、不断の努力とエネルギーが必要になってくるが、怠惰な自分には無理である。

ならば山の会の育成を登攀と仮想、その壁に取り付くことにする。登攀仲間として凄いのが周りには沢山いてくれるので、安心していられる。幾度落ちそうになっても確保は完全、少し弛むとガンバ!! と声が掛かり、ザイルが引かれる。なかなか休むことも出来ない。

昨年は一時期、１年生が５人、２・３年生が５人以上入会し、この登攀も終了かと思ったが、なんと１年生が一人も居なくなった。山岳部やワンゲルに行った。この二つは当面の競合サークルである。大きなハングにぶつかったみたいだ。幸い、しっかりした３年生が幾人か残った。彼らを核にして、山の会が育てば良いと思う。このハングを乗越し、ザイルを解き、両手両足を伸ばして大の字になりたい。本当の意味で現役が育った時だ。今年はそういう年にしたい。

2014年１月　稲門山の会代表　上田訓央

新年会のご案内

稲門山の会　役員会

昨年10月に知合いの静岡大学山岳部の創立80周年記念のパーティーに出席しました。静岡大学は現在でも学生部員が20名ほどの山岳部で活発に活動しているそうです。我が山の会は1956年創立ですので、あと２年後には創立60周年を迎えます。

皆様にお知らせしておりますように現在学生会員７名が活動しています。創立60周年には、OBG皆様と協力しながら、一緒にお祝いしたいと期待しております。

さてその前哨戦として先ずは今年の総会・新年会《**２月１日（土）午後３時　大隈会館　会費6000円**》に皆様の元気なお顔をお見せして戴き、ご意見を大いにお聞かせください。特にS．50年以降に卒業されたOBGの方々のご参加を期待しております。皆様でお誘いあって是非ご参加下さい。別途「総会・新年会のご案内」と出欠の「返信はがき」を同封してあります。

副代表　井村英明（S.40年卒）記

春の「乗鞍高原スキー」のご案内

恒例の山とスキーの会の「乗鞍高原スキー」を以下の通り企画しております。

貸し切りバスの車内で歓談、にごり湯の宿に泊っての楽しいスキー・ツアーです。宿はスキー場に歩いて3分の便利な場所です。皆様お誘い合わせのうえご参加ください。

日程：2014年2月28日（金）東京駅丸の内北口　17：00　出発　当日夜　23：00頃　温泉宿到着
　　3月2日（日）温泉宿　13：00　出発　19：00頃　東京駅着

宿泊旅館：みたけ荘　にごり湯の宿
　　〒390-1513　長野県松本市安曇4291-1　乗鞍高原温泉　Tel 0263-93-2016

会費：大人　32,000円、子供（小学生以下）　24,000円

会費振込先：三井住友銀行　日比谷支店　普通預金口座　1750869
　　口座名義：山とスキーの会　市村栄一

申し込み＆連絡先：山とスキーの会　市村栄一宛に1月20日までに申し込み下さい。
　　〒105-0004東京都港区新橋5-7-2　Tel 03-3436-3237　Fax 03-3436-3238
　　e-mail　e-ichimura@mbi.nifty.com

旅行傷害保険に加入しますので、住所・氏名・生年月日・電話番号を申込時にご連絡ください。㈱アウトドアサポートシステムの上高地・スノーシューツアー及び乗鞍リフトの終点より稜線までのツアーも企画しています。

世話役　新井昭夫（S.46年卒）

春のハイキング「矢倉岳」のご案内

今年は、足柄山地の独立峰的な山＜矢倉岳・870m＞を企画致しました。山頂からは箱根外輪山・丹沢山塊・富士山が一望できる素晴らしい山です。季節は丹沢より半月以上早く、神奈川県の山々が最も美しい時期です。是非皆様ご夫婦でお孫さんもご一緒に参加下さい。

日　　時：2014年4月13日（日）9時15分集合

集合場所：伊豆箱根鉄道大雄山線　大雄山駅　改札口
　　大雄山駅（関本）へは　下記①又は②のルートで行けます。
　　①小田急線・新松田駅から箱根登山バス、関本下車
　　②小田原駅から大雄山線、終点大雄山駅下車

コ ー ス：地蔵堂･万葉公園コース（歩行時間　3時間40分）　大雄山駅前、関本バス停（バス30分）⇒地蔵堂（1時間）→足柄峠（15分）→足柄万葉公園（50分）→清水越（20分）→矢倉岳（1時間10分）→矢倉沢本村（5分）→矢倉沢バス停（バス20分）⇒関本・大雄山駅

昼　　食：各自持参下さい。

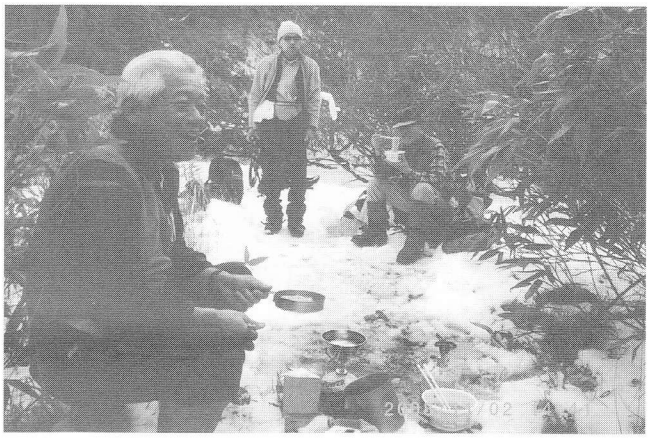
幹　　事：齋藤延雄（S.45卒）yuiyui@zg7.so-net.ne.jp 080-4005-3934
　　松村幹雄（S.48卒）mykof04@s5.dion.ne.jp　080-5175-9695

＊ご面倒ですが、参加予定者の概数を把握したいので、参加しようかなとお考えの方は4/6迄に幹事宛にご連絡下さい。

「投稿」日本百名山完登・スローランナーの記録

廣瀬　舜一（S.36年卒）

人生で最初に登った百名山は、阿蘇山（1592m）、小学校６年時の努力遠足でJR坊中駅より牛の糞を踏み付けながら登る。中学２年の夏同級生と先生６人で久住山（1788m）に登り、山登りの味を占めました。もっとも百名山を意識して登り始めたのは60歳の誕生日を迎えた時です。



▲妙高山腹にて　左から打矢OB（S.37年卒）・廣瀬・池田OB（S.36年卒）

それまでも子供４人を高校生の頃アルプスに幾度か連れて行きましたが、百名山ブームがふくらんでくるにつれ、何か仕事以外でも生きた痕跡を残すものがあれば充実した豊かな人生になるのではないか、やるなら百名山完登を、体力のある内にと思いスタートしました。やっとの思いで74歳の誕生日18日前の10月27日に完登、こし方の歳月を考えると感無量です。大分県では４人目の完登らしいのですが、達成しても評価される類のものでもなく、自分だけの宝物と思っています。

なにしろスーパーコンボ（食品＋ホームセンター）の現役社長という立場に加え、日本の南端に位置する大分に住むというハンディを背負っての登山なので、まず長期計画を立てました。第一に遠い山、難しい山、登りのキツイ山は体力のある67歳までに、東京より行き易い上信越の山や奥秩父、東北の山々をその次に考え、ケーブルのある山や低い山は最後にと大雑把な計画を立てました。実際に紅葉満開の岩木山と八甲田山は女房と一緒でした。このうえで山仲間の都合に合わせてチームを組み、お陰様で大過なく完登できました。山仲間諸氏には大変感謝しています。同時に山村の人々や、山関連のお仕事の方々のご努力に対しても心からお礼申し上げたい。更になんといっても豊かで平和な日本の社会があってのおかげであることや、この時代に生れ合わせた幸運に対し、ありがとうの気持ちを「ヤッホー」の声に乗せてお返ししたいと思います。

さて学生時代は30kg以上の重装備で長期の山登りに精を出し、自己の体力や踏ん張り、あるいは限界への挑戦に喜びと達成感を味わっていました。私の所属した厚生部の仲間はこのようなストイックな考え方の部員が多く、ワンゲルや山岳部に負けるものかと思っていました。今日では年齢的なものからくる視野の広がりや、科学技術の進歩で装備重量が1/2以下に軽くなったこと、

山小屋泊がベースの気軽さで、ゆっくりとかつ多面的に山を楽しむことができました。

この計画の中で一番苦心したのは時間繰りでした。九州からは飛行機を使っても２日は往復の時間をとられてしまうため、時間の節約に知恵を絞りました。地理的ハンデイを克服するために２～３座を連登で計画しましたが、山行途中や下山後の温泉旅館に泊まれたことで達成感を割り増しして、幸せ感に浸ることができ、「忙中閑あり」の心境になりました。

しかし納まりが悪いのは社員のモラルの問題です。私は創業オーナー社長なので絶対的権限は握っているのですが、社員の心までコントロールできるわけではありません。完全週休２日制を取り、地方の中小企業としては、№1の待遇をしている自信と実績はあっても、一方24時間の臨戦態勢で利益を追求すると共に、「社員の物心両面の幸せを追求する」「そのためには誰にも負けない努力をする」と高い経営理念を掲げてマネジメントをしているだけに、“社長は又山か！俺達は頑張っているのに”と思われないよう、朝８時から夜７時まで11時間ビッシリ仕事をした上で、積雪期を除いた５月～11月の間に毎年登ってきました。疲れが残る翌日はつらい思いをしました。

さて百名山の登り始めは創業時より売上高100億円を達成し、気分的にも一段落した時期でした。現在では売上340億円、従業員1300名となり、経営をやりながらの百名山完登となりました。山も仕事も学生時代に大国先輩が付けた私のアダナ通りのBチャン（遅い）の人生となりました。その大国氏とは九州の開聞岳（924m）、霧島山（1700m）の山行で２度も出会い、互いにビックリしました。

イ）百名山の最後の山：本橋氏と山根氏のサポートを受けて会津駒ケ岳（2133m）を堪能しました。特に紅葉が我が人生で最高の彩りで迎えてくれて感動と感激ひとしお、74歳の誕生日の最高のプレゼントになり、百名山の最終回となりました。

ロ）ヒヤッとした百名山：４年前至仏山（2228m）登頂後尾瀬の長兵衛小屋で夜食にビールを飲んで軽く酔った後、立上がった時にフラッとして軽い脳梗塞を起こし、（５分で良くなりましたが）山小屋や同行の本橋、笠原両氏に心配を掛けたことです。翌日は燧岳（2346m）を中止して尾瀬ヶ原の木道を本橋氏サポートの下に無事帰って来ました。

ハ）残念な百名山：４月29日の連休前に登った南アの鳳凰山（2841m）です。４月中旬の季節はずれのドカ雪で泊る予定の小屋が倒壊し、部屋もフトンも水浸しで、夕・朝食共にありつけなかったことです。山小屋のご好意で冬期用の小さなベニヤ張りの小屋に泊れたのですが、４月

とはいえ積雪１mを越える雪山の夜は３シーズン用の寝袋では耐えられず、工藤、池田氏と共に一夜中まんじりともしませんでした。翌日は食料も乏しい上に濃いガスが立ち込める悪天候のため、頂上まであと１時間の地点で断念したことです。

ニ）大名旅行のトムラウシ（2141m）：百名山は結構女房と一緒に登っているのですが、本橋氏と登ったトムラウシのヒサゴ沼では新しい発見がありました。どうみても夫婦には見えない２人連れがいる。ホテルや旅館ならば御忍びもありますが、苦労して山の上までは？と蛮勇をふりしぼって聞いてみると、山好きの中年女性が１人で山岳ガイドを雇っての大名登山でした。こうすれば南アの山のおやじにハッパを掛けられた80歳までは登れるかな（共に登ってくれる山仲間はいなくなるだろうから）と、新しく気づいてほっとした次第です。

ホ）一番つらかった利尻岳（1719m）：フェリーを下りて海抜０から一気に登り、頂上かと思って一息付くと更に標高差500mの主峰が眼前にりりしくそびえ立っていました。もうひと踏ん張りと頭を真白にして頂上をめざす。眼下に広がる日本最北端の荒々しい海原と礼文島に感激しました。下りは最終フェリーの時刻を気にしながら、ノンストップでひたすらかけ下りて10分前にすべり込みセーフ。名物の馬糞ウニはみごと食べそこない、つらさが倍増しました。

ヘ）楽しさ極め付けの笠ヶ岳（2898m）：地元の山仲間である、薬師寺、石川、坂本氏の３名を引き連れて、北アルプス最深部、黒部川の源頭を踏破して笠ヶ岳までの大縦走。初日は富山市で日本海の海の幸を満喫、翌日は有峰湖より太郎平の小屋へ。３日目は黒部の源流、上の廊下に下りて、学生時代の夢よもう一度と、初恋の舞台となった雲の平へ、溶岩台地の急登をよじ登りました。４日目は、雲の平小屋を後に鷲羽岳、三俣連華を経て双六小屋へ。５日目は、槍穂高や鳥も通わぬ滝谷の岩壁を遠望しつつ笠ヶ岳の肩の小屋へ。翌日は笠ヶ岳の頂上より一挙に新穂高温泉へ1900m下る。ネットで捜し出した高級旅館に半額で泊り、５泊６日の山行の豪華な打上げをしました。更なる満足は、この５日間の山旅がすべて快晴であったこと、双六池で出会った打矢氏とぜんざいで舌づつみを打ったこと、笠ヶ岳をバックに抜戸岳で最高のお気入りの写真がとれたことです。

ト）おもしろかった幌尻岳（2052m）：急流を15回も渡渉してやっとついた山小屋でストーブの回りの特等席に。天候には恵まれず、霧雨が降る中のアタックで熊は見かけなかったが、原生林の登山道は北海道最奥の山の貫禄充分で、ここで迷い込んだら助からない。“熊に出会ったらどうしよう”と緊張感を持ちながらも、本橋、池田のベテランの両氏が同行している安心感からか小雨の中の原始の森でトカゲを決め込んだこと、小屋に下りついてやっと達成感を味わえ

たこと、増水で足止めをくった山小屋で百名山の武勇伝に花が咲いたこと等、おもしろかったことの多かった山行でした。

チ）感動ひときわの赤石岳（3120m）：大学４年の早稲田祭の頃、卯月氏と登った初冬の赤石岳に、今度は夏に荻村氏と挑戦。荒川岳の東傾面のお花畑のみごとさに感動！　赤石岳は山容のスケールの大きさでは、富士山は別格として、№１のデカさを持つ南アの盟主である。新設なった鳥倉林道より三伏峠経由で登頂(荒川岳共々)。２度と登れないと思っていた山だけに感激もひとしおでした。赤石岳のふところにある赤石小屋から、晴天のベランダの上で、心ゆくまで眺めた悪沢岳（3146m）と本橋氏と登った聖岳（3011m）は圧巻でした。

リ）大雪渓を堪能した剱岳（2999m）：剱岳は２年前に映画「点の記」に触発されて、本橋、薬師寺、石川氏と３度目の挑戦。晴天の頂上は今回が初めて、前２回のウップンを晴らしました。山波はるかに槍ヶ岳や針ノ木岳等の後立山の連山を遠望。剱岳の大雪渓を下って黒部のダムの下部まで足を伸ばして、黒部川の下の廊下のものすごい水量とダム放水の水しぶきに圧倒され、黒部川の測りしれない底力にふれた思いでした。　以上

▲剱岳山頂にて　左から本橋OB（S.36年卒）・廣瀬

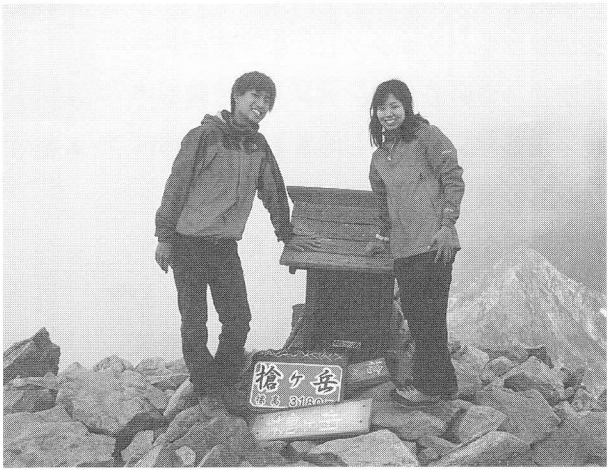
学生夏山合宿とOB同行報告

金子治雄（S.41年卒）記

日程１）：燕岳～槍ヶ岳～穂高岳縦走　８月26日～９月１日
　　学生参加者：L渡辺容子（政３）山川（商３）
日程２）：穂高岳涸沢定着（北・奥穂高岳・北穂東稜予定）８月28日～９月１日
　　OB参加者：L井村（S.40年卒）金子（S.41年卒）島田（S.46年卒）

当初縦走は学生３名、涸沢定着には学生２～３名が予定されましたが、就活や諸般の事情で縦走パーティの学生２名だけの参加となりました。学生の渡辺さんと山川君は共に自然人クラブというアウトドアサークルに所属し、今年山の会と掛け持ちで入会しましたが、今合宿前にも渡辺さんは種池～鹿島槍・五竜・白馬・朝日岳の縦走、山川君は南アルプス南部～中部の10日間の縦走を行っていて縦走経験は十分で、岩峰を歩きたいとの希望で今回の夏合宿は穂高周辺を予定しました。

合宿前には部室で準備会を開き、コースの把握、装備の点検等を行い学生、OBは食料や燃料の買い付けなど慌ただしい中、南海上の台風発生を気にしながらも、出発の日を迎えました。学生パーティは８月26日に夜行バスで出発し、翌27日に縦走初日の重荷にもかかわらず中房温泉から合戦小屋を経て燕山荘に順調に到着。荷を置いて燕岳ピストンを行った後、目指す槍ヶ岳を見ながら表銀座の稜線を辿り、大天井ヒュッテの天場に幕営。28日は昼から雨の予報のため、夜の明ける前から歩き出し西岳を越え、梯子や鎖場を辿り槍ヶ岳山荘に到着、雨の上がった槍ケ岳を登頂し、翌日のキレット越のために南岳小屋まで天場を移動しました。29日は今回の縦走で一番の晴天日であり、天幕、食料、器材の重荷を担ぎ、天覧山での岩登りトレーニングの成果を活かしながら、慎重に長谷川ピーク、飛騨泣きを越え、登りも順調に北穂高に到着しました。ここでパーティを２分し、渡辺さんは南稜から直接涸沢天場へ、山川君は涸沢岳から奥穂小屋を経てザイテンから涸沢へ下りました。



▲現役２名の雄姿・槍の頂上にて

一方OBパーティは８月28日夜、シュラフ、マットなどの個人装備の他、テント、器材、食料、登攀用具と50mザイルなどを手分けして45～60Lのザックに詰め込んで、

夜行バスにて出発するために大手町毎日ビルに集合しましたが、自宅から集合場所までくる間に消耗し、不安な内にも懸命に睡眠をとり、翌29日に早朝上高地に到着しました。肩に食い込む荷を揺すり挙げながら、これはOBの夏山合宿だなと想いつつ横尾まで何とかダレズに到着。橋を渡り屏風岩にも目もくれずひたすら本谷橋へ。当初案じていたより楽に行けるかなと喜んでいましたが、本谷橋からの急な登りが始まった辺りから、涸沢の道は地獄の道に変わってしまいました。形は変わっても、この道を辿り幾度か遠くに仰ぎ見た、涸沢ヒュッテのポールが、ちっとも近づかないと感じたのは、初穂高の高校時代以来でした。ようやく涸沢の天場に到着すると、学生たちは既にテントを設営しておりOB連の到着を今か今かと待ち構えていました。８月の終わりの涸沢はテントも少なく、台風の襲来まぢかで雨雲も厚く立ち込めて来たので、いつもの気が躍るような華やかさに欠けていました。

テントを設営し夕食後、学生たちと歓談しましたが、その頃より予報通り雨が降り出しました九州北部に近づいた台風が、列島の日本海側に横たわる前線をひどく揺さぶったため、その夜は大風と大雨が涸沢を吹き荒れました。井村OBは谷側に頭を向けて寝たので熟睡していましたが、島田OBと金子は稜線から吹き寄せる雨風で、テントが顔の上に圧し掛かり、しばしば睡眠を中断されました。隣のテントは夜中に小屋に避難し、学生たちも余り眠れなかったそうです。朝起きて外を確認したら、ポールが折れてテントが変形していいました。ヒユッテにあるTVの天気予報とヒュッテの人の話から、台風接近と共に天候悪化が予想されるため、井村OBが下山を決定しました。雨天の中撤収するため、テント内でマットやシュラフをパッキングし、床一面に水が溜まっているため、テント内で靴を履きました。結果としてまるで雨に濡れるため重い荷物を涸沢に担ぎ上げたようですが、荒天にはとても敵いません。

▲涸沢にて雪上訓練　左から井村OB（S.40年卒）・渡辺・山川・金子OB（S.41年卒）・島田OB（S.46年卒）

雨の中、簡単な雪上訓練の実施後解散し、足の速い現役学生とは別れ、別々に下りました。

大山登山とBBQの夕べ　ご報告

幹事　齋藤延雄（S.45卒）
松村幹雄（S.48卒）記

2013年秋のイベントが、9月28日～29日に現役2名を含む15名の方々が参加して、神奈川県の丹沢にて行われました。当日は台風一過の晴天に恵まれ、大山登山をされた方々も予定通り水無川上流の作治小屋に集合し、恒例となりました上田代表による“山の神への安全祈願”も厳かに済ませ、日の暮れる頃には皆さまお待ちかねの夜の部がスタートしました。

▲ヤビツ峠にて・全員集合

BBQは島田OBが知恵を絞った食材に皆さん舌鼓みを打ちながら、お孫さん程に年齢差がある（ちょっとオーバー？）現役の渡邉さんや山川君との会話に花を咲かせつつ、小屋番さんが好意で差し入れしてくれた鹿肉もしっかり平らげ、健啖ぶりを発揮していました。

夜の部の二部は、盛大なキャンプファイヤーを囲んでの山の歌の合唱です。新井OBのリードで、昔懐かしい山の歌を夜が更けるまで歌いまくり、最後はいつもの通り肩を組んでの校歌斉唱を行い終宴となりました。

翌朝は、モミソ沢を登る井村OBと現役・山川君を皆で見送り、予定通り8時に現地にて解散しました。

参加者　OB　：上田（S.33卒）・栗又（S.38卒）・井村（S.40卒）・笠原（S.40卒）
金子（S.41卒）・佐久間（S.43卒）・太郎良（S.43卒）・齋藤（S.45卒）
島田（S.46卒）・新井（S.46卒）・豊田（S.47卒）・松村（S.48卒）・
林（S.48卒）　13名
現役：渡邉・山川　2名

「花の同期会」のこと

松村啓之亮（S.38年卒）記

稲山会の中に卒業年次や「研究部」同志など諸々の口実での分派活動があまたある中で、『花の』と美しい言葉で彩られているのは、昭和37年卒同期会からスタートしたこの集まり（勿論早く言い出したが勝ち、だけのことではありますが）。人数の多い37年組が社会人となって10余年を過ぎた頃に第１回が行われて、爾来いつの間にか「37年度前後卒同期会」に変じたものの、実に42年間、飽きることも無く毎年初夏に景勝の地に集まって浅酌微酔の裡の清談に花を咲かせてきました。

当初より、酒宴だけでなく、山登りやハイキング、たまにはゴルフにシーカヤックまでも企画に入ってはいましたが、2000年に『ミレニアム花の同期会（還暦・定年記念）』と銘打って開催される辺りから、さすがに体力無用の集まりになりかかってきたのも致し方ないことではあります

また、特筆すべきことは、初回に作成されて以来連綿と書き加えられてきた幹事用の「引継ぎノート」。日時・場所・費用・参加者はもとより、一覧すれば総酒量から珍談も窺い知ることができるもので、流石に記録を残すことを躾けられた山の会ならではのもの。幹事の下打合せで持参し泥酔の果ても守り抜くなど風雪に耐えた連隊旗のようなノートも、残念ながら数年前に消失し今は２代目のファイルと新時代のCD。最近は、過去の参加者記録を眺めては、この会に最後まで参加し続けるのは果たして誰だろうかなどと、少々弱気な話題も出るようになりました。

そして2013年度の第42回は、７月５日（金）・６日（土）、遠出を避けて青梅の岩蔵温泉郷。明治16年開業の木造の内装も雅趣に富んだ「儘多屋（ままだや）」に、以下の14名が参加して行われました。

滝沢・西山・加納・荒川（以上S36年卒）、東・鈴木・山本・金子・打矢・恩田（以上S37年卒）、白倉・吉田・宇野澤・松村（以上S38年卒）（敬称略）

▲花の同期会・全員集合

次回、2014年度（第43回）は、荒川さんと打矢さんが幹事役で行われます。集まり散じるのがワセダ。参加ご希望の方があれば上記幹事役にご連絡下さい。

第42回幹事：山本道明、幹事心得：松村啓之亮

稲門山の会有志　ゴルフコンペの報告

斉藤雄二（S.41年卒）記

滝沢OB主催、吉田OB世話役のコンビでOB会有志によるゴルフコンペが十日町で開催されました。日程は10月２日に十日町観光、３日にリゾート「ベルナティオ」のコースでゴルフコンペが行われました。２日の宿泊は「ベルナティオ」でした。

▲十日町観光・松代の棚田にて・全員集合

参加者は小松OB（S.34年卒）・本橋OB・滝沢OB（S.36年卒）・東OBご夫妻・打矢OB（S.37年卒）・宇野澤OB・吉田OB・宮内夫人（S.38年卒）・斉藤OB（S.41年卒）・丹治OB（S.44年卒）・新井OB（S.46年卒）の12名でした。

３日のゴルフコンペは雨に降られて、18ホールのプレーは出来ましたが、スコアはドローとなりました。今回のハイライトはゴルフではなく、２日の滝沢OBガイドの十日町観光でした。由屋のへぎそば、松代棚田バンク、雪国農耕文化村・農舞台、中でも博物館の縄文土器・国宝火焔型土器は圧巻でした。夜の「十日町小唄」講習会も楽しいものでした。

地元の滝沢OBにお世話になりっぱなしの２日間でした。

気象部OBG会“八甲田の紅葉を愛でる旅”報告

金子治雄（S.41年卒）記

『新緑が目にしみる季節になりました。すでに第１報でご連絡致しました“八甲田の紅葉を愛でる旅”の第２報をお届けします。八甲田の紅葉は草原から湿原、そして山頂にかけての夫々の紅葉が素晴らしく、当地を訪れた総ての人々が感嘆しています。八甲田山麓の湯量豊かな“酸ヶ湯”に浸かり、紅葉をタップリ味わう旅にしましょう』との、幹事を務める栗又さん（38年卒）、中込さん（39年卒）の案内状に期待を膨らませて秋を待ちました。しかし今年は夏の終わりから台風の当たり年が顕著になり、10月に入り太平洋に台風24号が発生した時から、もしかするとやられるかも知れないと、いやな予感がしていましたが、OBG会直前には台風は日本海に入り温帯低気圧に変わっても、前線が東北北部にかかりきりで八甲田登山予定日は確実に雨が予想されました。

▲酸ヶ湯にて・全員集合

OBG会の当日、この日だけが唯一の晴天日で、新青森からのマイクロバスの車窓からみる八甲田の紅葉に歓声を挙げました。夜は酸ヶ湯のヒバ千人風呂に浸かり、和やかな内に定例の懇親会を楽しみました。翌日は小雨を期待しましたが、明け方から屋根を打つ雨音で目を覚まし、残念ながら八甲田登山は中止となりま

した。この気象部のOBG会は悪天に遭遇することが多く、朝食後どこにも行かれず宿を後にしたのはこれで３回目です。かつて白馬に百葉箱を持ち込んで山岳気象を研究していた私たち気象部員にとって、山は晴天ばかりでないことを熟知しているため、特に残念だとは想わず、よくあることだと言いながら解散しました。

今回は幹事さんが八甲田という地を企画したおかげで、事前や事後に八甲田に結び付けて森吉山や八幡平、岩木山、奥入瀬、十和田など旅行した方が多く、雨のおかげで青森の棟方志功記念館を楽しんだ方もおられました。また岩木山では偶然、参加者同士が出会ったり、また酸ヶ湯では逗留していた太郎良（43年卒）ご夫妻とも出会ったり、印象深いOBG会でした。尚、今回初めて会員の斎藤（45年卒）と上田代表（34年卒）が参加されました。

日　時：10月10、11日

参加者：（敬称略）　東、恩田、金子（弘）、竹内（S.37年卒）ご夫妻、古林、栗又、
小久保（S.38年卒）、中込（S.39年卒）、笠原ご夫妻、関根（S.40年卒）ご夫妻、
金子（治）（S.41年卒）、高岡（S.42年卒）ご夫妻、斎藤（S.45年卒）
上田、上田敦子（S.34年卒）ご夫妻。　19名

個人装備寄贈の御礼

稲門山の会　役員会

メール配信および稲山会通信にて、現役新入会員へのサポートのための「個人装備寄贈のお願い」をしたところ、西出厚生OB（S.36年卒）、打矢之威OB（S.37年卒）、小林伸吉OB（S.39年卒）、斎藤洋任OB（S.40年卒）、米山不器OB（S.53年卒）、金子律子OG（H.6年卒）の皆様から多数の個人装備をご寄贈頂きました。厚く御礼申し上げます。皆さまからご寄贈頂いた装備類は、６月の新人訓練山行（八ヶ岳・赤岳）、７月のザイルトレーニング（奥武蔵・天覧山）ならびに８月の夏合宿（北アルプス・燕岳～槍ヶ岳～穂高岳縦走および涸沢定着）に活用させて頂き、学生諸君からも感謝されています。皆さまの暖かいご支援に改めて御礼申し上げます。尚、今後とも個人装備のご寄贈を皆様にお願い申し上げます。

島田弘康（S.46年卒）記

編集後記

新年明けましておめでとうございます。皆様にとってよい年であること祈念しています。

今回は27号の近況報告に廣瀬OBが百名山完登したとありましたので、この記録を書いていただきました。稲門山の会には数名の百名山完登者がおられますが、こうした壮挙に拍手を送りたいと思います。私は好きな山に何度も登る（例えば穂高岳）、山登りの仕方が異なると言い訳するのですが、トムラウシや宮ノ浦岳の様なテントを背負っての山登りは、もう出来ないと思っていますので、百名山完登者はやはり凄いと思う次第です。

上田代表が「親の登攀」で現役の状況に触れておりますが、昨夏、３年生２人は槍穂のキレット越えをやっており、彼らの成長を応援したいと思います。“がんばろう！現役”

斉藤雄二（S.41年卒）記